

創刊昭和55年5月5日  
**第395号**  
 【通巻396号】

発行所 まんいちほち  
**418こちら情報部**  
 〒418-0063  
 富士宮市若宮町140(きうちいんさつ内)  
 TEL 0544 24-1515  
 E-mail: printkiuchi@space.ocn.ne.jp

印刷所  
**株式会社 きうちいんさつ**

次号は 5月5日の発行です。  
 発行数 15,500部

こちら情報部  
 yon.ichi.hachi.

春らんまん、花ざかりの美しい季節の到来です。



勝又 肇 (淀平町)

何を書こうかな

ある感動

三月と言えば、卒業式。過去、私は四〇数回も、色々な式を見てきた。涙あり、笑いあり、ハプニングありと、緊張の中だからこそ、起こることなのだ。今年卒業式の前日に、初めてある出来事があった。

朝早く、学校に着いた。今日は三年生が来る日なので、久しぶりに会える生徒がいる。なんとなく、浮き浮きした気分だった。朝のSHRまで、あと一五分位になってた。私は一日の予定を立てるために、机に向かっていた。その時、男子の生徒が声をかけてきた。顔を上げると、三年生だ。数人、並んでいる。「どうしたんだ」と声を返した。「よく見ると、数は七名。一体何があったのだと奇妙な感じで、彼等を見つめた。「先生、ここへ来てください」「私は瞬時に彼等の前へ歩み寄った。センターにいた生徒が背中中に隠し持っていたものを取り出した。「先生、ありがとうございます」と手に持った花束を差し出したのだ。呆気にとられ、私

は固まった。全員が深々と礼をする。この生徒たちは、掃除担当を一年間共にしただけであつた。「清掃が楽しかつ

マンズリーエッセイ 233

休日

た。そのお礼です」と彼等は告げた。私は絶句した。涙を止めようもなかった。 望月 勝

年のせい、はたまた生まれ持った貧乏性のせい、休日、私は朝からじつと休んでいることができない。だからたまの休みにはゆっくりにしたいと思つて、女房に叱られてしまう。しかし私のこの行動はどうやら日本人の国民性らしい。確かに、国内外の行楽地に行つても、忙しく歩き回っているのはほぼ日本人で、欧米人は大概海岸やプールサイドに横たわつて本を読みながら休日をつつたりと過ごして

角田猛夫

書店

くらしの言葉から  
 新年度になり、新しい仲間を迎えたり、これまでと違う環境になつた方も多いかと思ひます。特に新入学や進級、就職した人は、新しい教科書やマニュアルなどを手にして、心新たに頑張っている人もいることでしょう。

若者の活字離れは指摘されて久しいですが、昨今の経済状況も反映して、書籍の売上高は減少傾向にあり、ここ数年、書店や出版社は自主廃業や倒産など、撤退が相次いでいるようです。

経済産業省等の調べでは、平成六年に二万六千余あった書店数が、現在は一万四千余にまで減少しており、今年一月度は、とうとう一つも新規開店がない

書店に行く時、折、小さな子供達がワイワイ言いがら楽しんでるのを見かけます。四月三日の子供読書の日に合わせて、みんな読書の楽しさを探して、書店に行つてみませんか？

萬歳

小学校低学年から  
**「くんちゃんのはじめてのがっこう」**  
 ドロシー・マリノ さく まさきりこ やく ぺんぎん社

こぐまのくんちゃんは、きょうから1年生。途中、出会ったみつばちたちに「ぼく がっこうにいくんだ」と声をかけながら、お母さんと学校へ向かう。1時間目がはじまると、くんちゃんはだんだん不安になり、外へ飛び出してしまう。それでも気になって窓からのぞいていたくんちゃんは、先生の質問に答えることができ、ホッと安心する。はじめて学校に行つたくんちゃんの気持ちが聞き手の共感をさそう。

(絵本と子どもの本のリスト「おもしろい本みつけた」より)

白砂青松

白い砂浜と青い松林のつづいてる海辺の美しい景色を「白砂青松」という。「日本の白砂青松百選」の中で――静岡県からは「弓ヶ浜」(南伊豆町)、「千本松原」(沼津市など)、「三保の松原」(静岡市清水区)、「遠州大砂丘」(湖西市など)が選定されている。

既報とおり、巨大津波に呑まれながらも、七万本の松の中、ただ一本だけ生き残つた、名勝「高田松原」の「奇跡の一本松」。――まさに復興のシンボルだったが、昨年五月新芽が出ず、枯れてしまった。故に、このたびモニメントとして復元してみたもののその費用は億単位。一方で仮設住まいなどの「人の復興」が遅れているのに、なぜ木の復元が優先されるのか。と、現場からの声は重く。

さて、海はすべての生命の源ともいわれ、地球の表面積の約七〇パーセントを占める。海岸はその接点であり、北方領土を除く日本列島は、総延長で三万一九九六・五キロ(平成九年国土庁調べ)である。

いま全国に「海岸侵食」という現象が広がっている。戦後次々に造られた防波堤や海港は、砂を運ぶ潮の流れを妨げ、川の砂利採取やダム建設は、海へ流れる土砂を減らしたため、浜はやせる一方で、「白砂青松」という日本の風景が消えつつある。房総の九十九里浜、静岡の三保松原、紀伊の七里御浜、高知の桂浜…。国士が年に一六〇ヘクタールづつ消え、このままでは三十数年後に三宅島一つ分がなくなるという。(三國隆三著「海道をゆく」新書出版)

折をみて津々浦々をめぐり、日本の名数(三大の部)の名所を訪ねてきたが、とりわけ「三大松原」の「虹の松原」(佐賀県唐津市)、「氣比の松原」(福井県敦賀市)、「三保の松原」(前出)は、正しく「白砂青松」の屈指の名勝の地だった。

復興の兆しを含む松の芯

KEN III

伝言板

静岡県立朝霧野外活動センター  
**「プラネタリウム一般開放 ~春の星空と神話~」**  
 家族で春の夜空を楽しもう！  
 日時:14日  
 1部 13:15~受付 13:30~14:30上映  
 2部 15:00~受付 15:15~16:15上映  
 申込方法:お電話にてご予約ください。  
 詳細は後日センターHPにて発表いたします。  
 TEL:0544-52-0321  
 HP: http://asagiri.camping.or.jp/index.html

